

広島創生イノベーションスクール 第7回全体スクール 授業記録



平成29年3月24日(金)～26日(日)
会場 国立江田島青少年交流の家

広島県立広島国泰寺高等学校

広島県立安古市高等学校

チームB feel



広島県立三次高等学校

広島県立吉田高等学校

広島大学附属高等学校

広島県立広島観音高等学校



広島市立広島工業高等学校

チームA KFS's

NPO・社会人・大学生
メンター・スタッフ

事務局スタッフ



広島県立広島高等学校



チームC KKS homes

広島県立西条農業高等学校



広島県立呉三津田高等学校

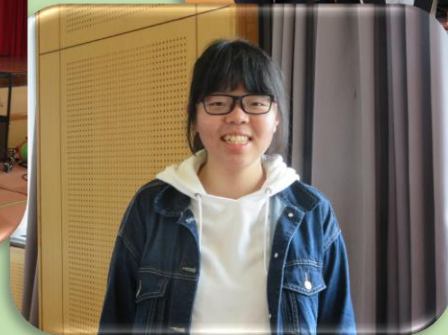


広島県立福山明王台高等学校



チームD レ点

広島県立尾道北高等学校



尾道学園尾道高等学校

海外派遣研修生

ワークショップ講師 静岡大学准教授 益川弘如 氏

東北スクールOB/OG



「深化」～活動の振り返り～

静岡大学大学院 益川准教授によるワークショップ

I グローカールスクールに向けて 活動の振り返り

Q 私たちの取組を限られた機会に効果的に伝えるには？

3分間でワークシートに記入⇒周りの人と意見交換



II アクティビティ(3～5人)

〈1〉現在拳がっている計画・アイデア

Ex. カッテデミー賞・共同宣言・有名人を呼ぶ・ワークショップ

〈2〉参観・参加者に伝えたい成長

Ex. 大勢に対してのスピーチ, ブレーンストーミングなどの話合いの習得
英語によるコミュニケーション, 自分たちが描いた理想の実現,
主体的な行動力

〈3〉参観・参加者に伝えたい内容・中身

Ex. 自分たちの成長・変化, 手伝ってくれる人がいること
地元愛, 地域のいいところ

〈4〉参観・参加者の立場で考える

(想定される参観・参加者は? 伝わりにくいことは?)

Ex. 海外の生徒→自分たちの思いを伝えられるか?
買い物客→そもそも立ち止まってくれるか?
観光客→自分たちの思いは伝わるか?



〈5〉新たに出てきた計画・アイデア

Ex. ちょっとした気遣いでおもてなし

リフレクションムービーで視覚的に伝える, 海外生徒を主役に

他グループと共有



III ワークショップ終了時点の考えは？

一番最初の問い Qをもう一度考えてみよう！

各エリア活動報告



エリアA

目標: 若者たちと地域との繋がりを深め、地元の活性化を図る。

- ・南区翠町の様々なイベント(盆踊り, 祭りなど)に参加。
- ・地域の人々と関わりの中で良い刺激を受けたり, イベントの企画や運営する力が身についたりした。
- ・目標の達成度を評価するための数値化や, その調査方法を考えることが改善点として挙げられる。



エリアB

目標: 若者たちがイベントの企画・運営を通してイノベーターを生み出す。

- ・トナカイ(都会×田舎)フェスの実施。
- ・今後の目標として, HIS第3期生を募集し, 将来のイノベーターを育成する。



エリアC

目標: 未来のためにいつでも帰ってこられる故郷を

- ・若者の地元に対する関心を高めるために広島大学でワークショップを開催。
- ・ワークショップ事前事後アンケートの結果より, ワークショップを通して, 地元に対する興味・関心の項目で肯定的な意見が増えた。
- ・メンバー内で十分な情報共有ができず, 準備不足があった部分が改善点として挙げられる。



エリアD

目標: 地元で活躍する人を世界へ発信することによって, 地元の活性化を図る。

- ・フリーペーパー「カッテデミー賞」1号3,000部設置完了。さらに, 2号発行。ICTを活用した取組について, 共同通信社から取材を受け, 新聞に掲載された。
- ・課題としてフリーペーパーにおけるアンケート内容の改善が挙げられる。
- ・プロジェクトのリソースとして, 人脈等のネットワーク, 情報発信のためのSNS, イノベーションスクールで身につけた力などが挙げられる。

海外協働PJT

海外協働プロジェクトチームは、7月30日に広島国際会議場での共同宣言の発表に向けて、第7回全体スクールでは、企画書とロードマップの作成、共同宣言作成のための各エリアの読解に取り組みました。

全体発表：目標、成果、影響、改善点

目標：共同宣言の完成、発表
成果：共同宣言の構成を考えた
海外の高校生との連携
影響：政策決定者からの支援
改善策：Classiの活用
現状把握（何ができていて、次に何をすべきか）



企画書作り



今までの各エリアスクールの活動から、プロジェクトに応用できるポイントを洗い出し、たくさんの実りと自分たちが身につけた力を再確認しました。その後、プロジェクトについて、次の項目に沿って詳細を話し合いました。

1. 実施概要, 2. 対象者, 3. 運営体制, 4. 費用,
- そして、現時点で分からないこと

これらについて全員で考えていくうちに、『共同宣言』そのものの中身を完成させることの重要性とそのための計画の必要性を痛感しました。

ロードマップ作成

東北クラスターOB中村君からガンチャートモデルを用いたロードマップ作成とその意義について、非常に丁寧な説明を受けました。それに基づいて、今まで、クリエイティブシンキングの力を発揮して、拡散させてきた考えを、今度は、実現に向けて収束させ、着実に進めていくための計画を全員で練っていきました。

【大きなタスク】

★共同宣言の完成と発表

【小さなタスク】

☆各エリアの考えをまとめる

☆協力国との連携（依頼，催促，お礼）

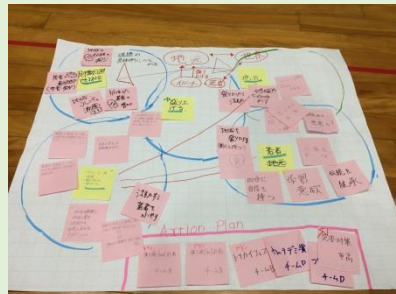
☆協力国の宣言を読解し，まとめる

☆宣言の日本語版，英語版を完成する

☆他のPJTと協力国との連携の支援



共同宣言の完成を目指して・・・



【共同宣言の構成】

- ① 前文
- ② 現状と課題
- ③ 実現したい2030年のよりよい未来
- ④ アクションプラン
- ⑤ 政策決定者に推奨したいこと

各エリアから提出された宣言を読解し，構成の項目に沿って，キーワードで整理して，まとめる作業を開始しました。付箋を使って，エリアごとに話し合いながら進めていくことで，自分たちが考えてきた課題や将来に向けてのビジョンがより明確に見えてきました。

共同宣言の完成に向けて，海外協働PJTはさらに加速していきます！

県民文化センターPJT ～ロードマップの完成に向けて～

＜今回の全体会での
「県文チーム」の活動概要＞
4つのプロジェクトについて、企画書やロードマップ、方法等について詳細を決定しました！また、リーダーを中心に、共通で準備するものの確認や当日の評価指標の検討も行いました。



＜各プロジェクトの概要＞



1. 未来創世ビジョン！

（対象）有識者，一般の方，
中・高・大学生

（概要）学生や有識者等と一緒に
WSを行う。

（目的）WSの中で意見交換する
ことで「若者の力」を再
確認してもらう。

2. 映像チーム（仮称）

（対象）すべての人

（概要）20分前後の映像
を断続的に上映する。

（目的）私たちが、この3
年間でどのように
成長したかを示す
ことで「若者の力」を発信する。



3. 子ども未来ロード

(対象) 小学校低学年

(概要) 広島や海外に関するクイズを行う。2030年のイメージについて個人で絵を描き、それを組み合わせた大きな絵を完成する。

(目的) 2030年の未来を意識する。



4. しゃべり場っ！

(対象) 海外の生徒，海外の生徒と話をしてみたい中・高・大学生

(概要) 6人前後の小グループで「レヌカの学び」から得たアイデアを基に文化交流を行う。

(目的) 異文化交流を通して，異文化への理解・興味を高めるきっかけを作る。



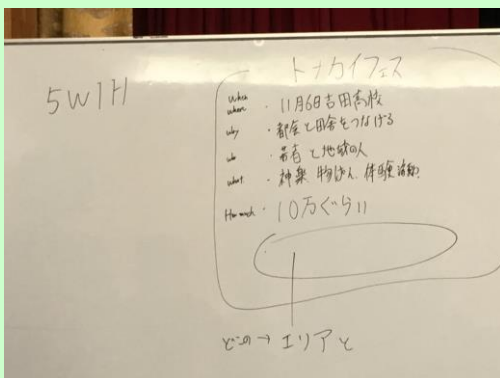
シャレオPJT ～ロードマップの完成に向けて～

今回のワークショップの大きな目的は、7月29日に向けて、自分たちのプロジェクト内容を具体化し、ロードマップを完成させるということでした。とはいえ、いきなりロードマップを完成させることはできません。そこで……

1) これまでの活動の振り返り

「ステージ」「物販」「伝える」の班に分かれ、これまでの活動を振り返り、次のことを確認しました。

- ① シャレオPJT全体としての目的
- ② 各班ごとの目的
- ③ 達成できていること
- ④ リソースの洗い出し



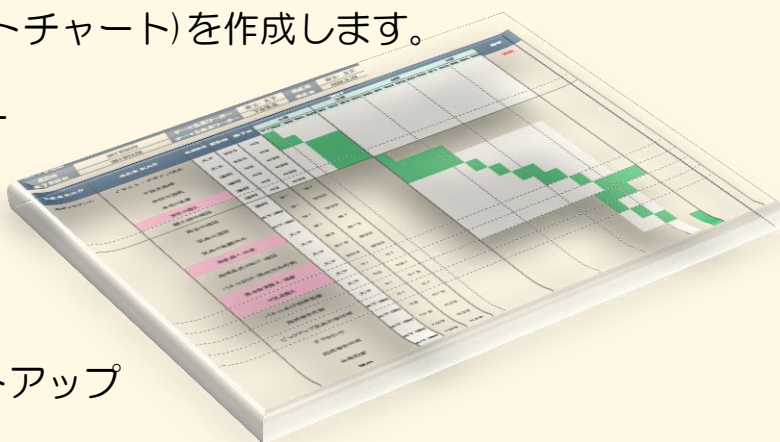
2) 企画書の作成

これまでのエリアスクール活動から今回のプロジェクトに応用できるポイントは？ プロジェクトの概要は？ 運営体制は？ 予算は？ 会場のレイアウトは？ など、イベントを実施するにあたっての「幹」となる部分をみんなで協議し、様々にリサーチを重ねて具体化していきました。

3) ロードマップの作成

各班ごとにロードマップ(ガントチャート)を作成します。

- ①プロジェクトイメージの統一
- ②タスクの洗い出しと
各タスクの実施時期の想定
- ③借用物品及び借用先のリストアップ
- ④企画内容・タスクの精選



初めは荒削りなものでしたが、試行錯誤や協議を重ね、更に社会人メンターさんからのフィードバックを受けて、より具体的・精緻なものへとブラッシュアップしていきました。

4) コンセプト・キャッチ・フレーズの決定

これまでの協議や検討を踏まえ、最後にシャレオPJTのコンセプトを最もよく表現するキャッチ・フレーズをみんなで考えました。いくつかの案が出そろったところで意見交換した結果、次のように意見が一致しました。

“おっ！ Shareカルジヨイ”

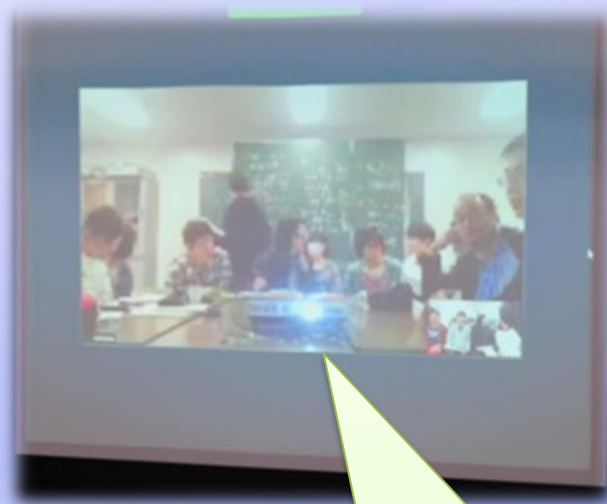
「(おっ!)share」には「シェア(共有する)」と「(お)シャレ」をかけています。また「おっ！」には新鮮な驚き、「カル」には「カルチャー」, 「ジヨイ」には「joy(喜び)」「enjoy(楽しむ)」という意味を込め、来場者の方々と一緒に広島や海外の文化の新発見・再発見に対する新鮮な驚きを共有し、みんなで楽しく喜びを分かち合いたいという思いを込めています。

そしていよいよここからが正念場！ 来てくださったみなさんに喜んでいただけるよう、チーム一丸となって頑張ります！ みなさんのお越しを心よりお待ちしております!!



東北スクールとの交流

ネット通話を利用して、東北クラスターと交流。各々のクラスターで進めているプロジェクトの概要説明および経過報告を行った。



広島クラスター

4つのプロジェクトチームに分かれ、それぞれのチームが異なるプロジェクトを遂行中。

- * 海外協働PJT
- * シヤレオPJT
- * 県民文化センターPJT
- * エリアエキスパート

東北クラスター

生徒国際イノベーションフォーラム(仮)を開催予定。フォーラムは、開会行事から閉会行事まで10のイベントを設定。

各イベントで重視するポイントを設定。例えばグループワークやポスターセッションの過程では相互理解など。

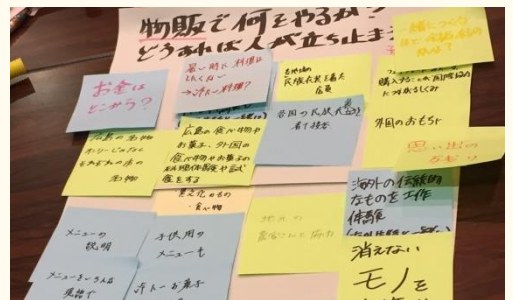
生徒のリフレクションより

みなさん、お疲れさまでした！今まで事務局の方々がしてくださっていたことを、みんなでこなしているのが、自分も含めて、みんなかなり成長したなあと思います。

Fast alone Far togetherという言葉が、他のみんなのリフレクション同様、印象に残っています。そして、これは、その二つのバランスが必要かなと感じました。みんなで決めなければならないこと、こちらが作ってしまって、みんなに共有するもの、こういうことのバランスをとらないと、togetherばかり考えていると前になかなか進まない、aloneだと、所詮一人分の力しかない。このバランスをリーダー会の運営でも考えていかなければなあと思いました。また、何となく、改めて自分の役割を感じることができた気がしたので、そこをしっかりと、自分の個性として頑張っていこうと思います！ここからみんなで、全力で突っ走っていきましょう！

全体スクールお疲れさまでした。

最後となった全体スクールは笑いあり、涙ありの今までで一番濃い全体スクールになったんじゃないかと思います。……企画の内容が具体的になっていく一方、どこか本当にこれでいいのかわからないというわだかまりもありました。今回の学びになったと感じたことは、そこで誰か他の人の客観的な意見や助言を聞くことができたことです。話し合いで行き詰まるとどうしても内部で抱え込みがちですが、こういう時こそ思いきって他の誰かに考えやアイデアを求めたり、助けてもらうことも大切だと感じました。今回、思い付かなかった新たな切り口を見つけることができたので、これからは7月末からのグローバルスクールに向けて突き進んでいきたいと思っています。



最後の全体スクールお疲れさまでした。今回はみんな本当にすごいことをやっているんだなあというのが最初の印象でした。

寺田課長の言われたように、HISの活動には「fast alone, far together」がとても大切だと思います。HISに参加する以前、また参加してしばらく、私はfast aloneこそ、至高だと思っておりました。……正直今もそれが大切な場面はあると思います。しかしそれだけでは正解ではないのだなと、この活動を通して思います。

今回私は海外協働PJTに主に参加しました。日本の主張、海外諸国の主張をまとめて英語にして、共同宣言をつくるという、複雑な内容を理解するのに初日を丸々費やしました。海外協働PJTにこそ、far togetherがとても大切だと思います。中で議論する内容は、“場”と“環境”の違いは何だとか、この言い回しはどうだとか、一見小さく見えるものが多いです。しかしそんな議論の中に、各チームメイトの大切にしていることや、価値観が見えてくる気がします。自分にはない考えをほかの人から聞いて、なるほど、と感動する。私がHISで一番好きな瞬間がこれです。この小さな議論、感動を積み重ねて、誰もが納得する共同宣言をつくる。これこそがfar togetherであり、将来これからも大切なスキルだと思います。

……夏、楽しみにしています！！

